

# ひゅーまん ねつとわーく

# 地域に生きる

2008年10月発行 / 第35号

社会福祉法人北摂杉の子会 社会福祉法人北摂杉の子会後援会 萩の杜家族会 ジョブサイトひむろ家族会  
ジョブサイトよど家族会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



9月から高槻市内の特別養護老人ホームと雇用契約を結び、洗濯作業に励む ジョブサイトひむろ利用者 林恵子さん

# ジョブサイトひむろにおける就労支援の展開

—「働きたい」から「働ける」に変えていく取り組み—



ジョブサイトひむろ

就労支援担当 <sup>まつ</sup>松 <sup>だ</sup>田 <sup>こういちろう</sup>光一郎

## ◆ はじめに

ジョブサイトひむろは、これまで提供してきた旧事業体系における知的障害者通所授産事業から、昨年11月1日に障害者自立支援法における生活介護事業と就労移行支援事業に移行し、利用者のうち16名の方々が就労移行支援を選択されました。それに伴い、本年5月に就労支援を専任とするスタッフを配置し、6月に保護者の方向けに今後の就労支援の取り組みについて説明会を実施し、本格的な就労移行支援がスタート致しました。

現在では、雇用先の職場での定着支援を行う専門職としてジョブライフサポーター\*2名、第1号ジョブコーチ\*1名と、作業療法士1名が配置されています。これにより、具体的には後に記すように、施設内にて作業療法士が中心になり計画を立てて行う作業訓練と並行して、就労先の職場においても、施設よりの就労支援スタッフが派遣されることにより支援が受けられる体制が整ったと言えます。本稿では就労に向けて必要な知識、能力を育むための支援の場として設定した、ジョブサイトひむろにおける4つの訓練グループの紹介をし、また関係機関との連携により雇用に結びついた事例から、利用者の自己決定を中心に据えて、それを過不足なく援助する取り組み、また今後の課題についてお伝えします。

## ◆ 「働きたい」をカタチにする4つの訓練グループ

ジョブサイトひむろでは、以下の4つの訓練グループを通じて、利用者の「働きたい」という願

いをカタチにするために、先送りすることなく、絶えず現状の願いを保障できるよう支援を行っています。

### ① 洗濯グループ

自立度が高く、現在ケアホームで生活をされている方や、近い将来、自立生活を視野にいれた方々を対象としたグループです。近隣の病院と連携し、病院の入院患者さんの衣類の洗濯をジョブサイトひむろ施設内にて実施しています。

また、部品の袋詰めや箱折りなどの内職作業の訓練を通して就労移行に向けたアセスメントを実施します。

### ② 陶芸グループ

陶芸や粘土の再生作業に適していると思われる利用者を対象に、施設のちょうど向いにて陶芸工房を開かれているフィールド<sup>どか</sup>土香さんと連携して、ジョブサイトひむろ作業場にて陶芸用粘土の再生作業、釉薬製造作業に取り組んでいます。また、土香さんの下請けとして、箸置の製造や作品作りにも取り組んでいます。

### ③ 折りコングループ

自閉症の方を中心に比較的自立して作業に取り組める方を中心としたグループです。府境を越えた京都府亀岡の安全食品流通センターさん(生協の配送センター)と連携し、個別宅配用の折りたたみ式コンテナ(折りコン)の洗浄作業をジョブサイトひむろ作業場にて行っています。また、京都国際社会福祉協力会桃山共同作業所さんと連携し、建築材料の袋詰め等の作業や近隣の病院から、おしぼりの洗浄作業等を請

け負い、それらの作業訓練を通して就労移行に向けたアセスメントを実施しています。

#### ④ 所外作業グループ

##### A) 企業内訓練グループ (A安全食品流通センター)

作業能力の高い方で近い将来、自立生活や一般就労を目指す方を対象としています。前出の安全食品流通センターさんと契約して、亀岡市内の会社に出向き、企業内で出る空きダンボールの整理や食品の箱詰め、折りコンの整理・洗浄等の作業に取り組み、一般就労へのステップアップを目指しています。

##### B) 洗濯作業グループ (B特別養護老人ホーム)

近隣の特別養護老人ホームに出向き、入所されている方々の衣類等の洗濯を実施しています。午前中は利用者のみで作業を行ない、午後から支援員が作業確認のみサポートを行っています。

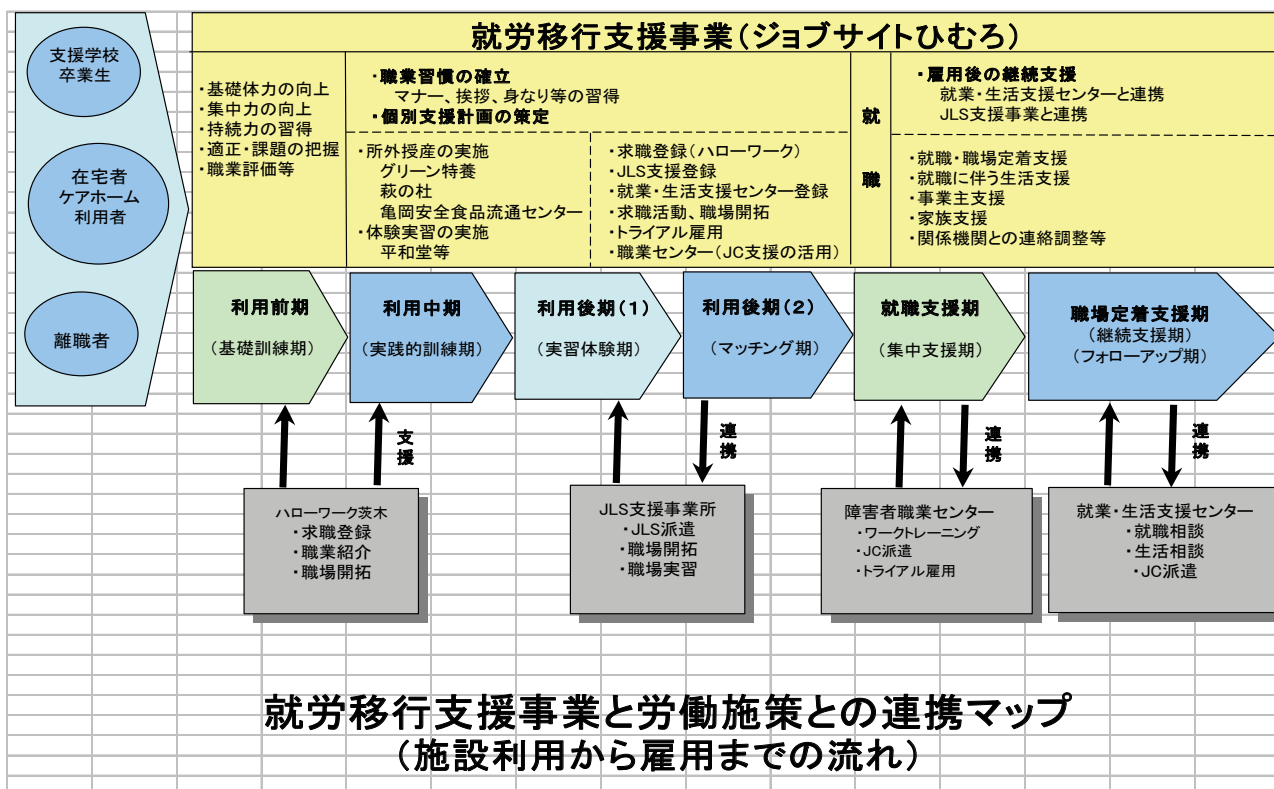
##### C) メンテナンスグループ (萩の杜/障害者入所施設)

昨年度より創設した一番新しい所外作業グループです。萩の杜の委託を受け、萩の杜施設内の廊下・リビング・洗面所・浴室等の清掃作

業を実施しています。今後は、法人外部での清掃業務等も検討し、利用者の方の自立した作業能力の向上を目的としています。

#### ◆ 「働ける」に近づけるための準備

利用者の「働きたい」という願いを実現するために、関係機関の協力を得ながら就労先現場を中心とした職場定着支援が受けられる体制を整える必要がありました。そこで、就労移行支援を希望された16名の方のうち、最初に7名の方がハローワークでの求職登録を行いました。これにより、雇用前実習におけるジョブライフサポーター支援事業(大阪府委託事業)を活用する準備が整いました。日割りとなっている現在の制度のなかで、施設に出勤しない日にも、この制度を使うことにより、就労先現場にてジョブライフサポーター、つまりはジョブライフサポーターとして登録したジョブサイトひむろの職員の支援が受けられることとなります。そして、ジョブライフサポーター派遣登録が完了した方から、障害者就業・生活支援センター\*事業の登録を進めて行きました。ジョブライフサポ



ター制度は利用期限があるため、期間終了後にフォローする体制を確保するためでありまた、就労と生活は切り離せない一体的なものなので、雇用後の生活の部分を支援するシステムを構築する必要があるからです。そして、これと並行してハローワークと連携し、実習を受け入れてくださる事業所の開拓を進め、個々の利用者の能力や作業ペースに合わせた実習に向け準備を行い、ようやく8月に初めての職場体験実習がスタートしました。



#### ◆ 「働ける」に変えていく支援

ジョブサイトひむろの就労支援では、障害のある個人を、障害のまま、現状の社会において受け入れられるよう、利用者にとってより負担の少ない「働ける」という行動成立のための援助設定と、その普及のための援護活動を前提にした設定により、利用者の方の「働きたい」という願いを先送りすることなく、キャリアアップに向けた支援を実施しています。今回、その一部の事例をご紹介します。

##### ① 洗濯グループに所属しているAさん

Aさんは以前に就労経験があることから、ハローワークの求職登録を行った際に、求人検索で特別養護老人ホームの洗濯員の求人を見つけました。Aさんの意思を確認し、その場で紹介状を発行していただきました。その後、事業所での面接と実習を経て、めでたく7月に

雇用（パート）が決まりました。実習期間中、Aさんが職場への通勤に慣れるまで通勤支援を行うとともに雇用継続に向け、障害者就業・生活支援センター事業の登録を行いました。現在、Aさんは週1回、ジョブサイトひむろに出勤して職場での様子を伝えてくださっています。今後は、関係機関と必要な調整をしながら定着支援を続けていくことになります。

##### ② メンテナンスグループに所属しているBさん

Bさんは、所外での施設清掃を主業務とするジョブサイトひむろ・メンテナンスグループでは、自立行動に向けたツールとして、「清掃作業チェックリスト」により、モチベーションアップを図ってきました。清掃作業に従事する以前には、洗濯グループに所属していたこともあり、合同就職面接会で、特別養護老人ホームの洗濯員の求人にもチャレンジし、高倍率にも拘らずみごと合格しました。早々に作業療法士と連携し、1週間の実習のあいだに環境面のアセスメントを行い、職場定着に向けてジョブライフサポーターとしてジョブサイトひむろ職員が出向くようになりました。もちまへの明るさと頑張りが認められ、9月に就労先との雇用契約（パート）が交わされました。現在は、Bさんの能力に合わせ無理をせず、おひとりでの通勤がまだ難しいため、ジョブサイトひむろから職場までの送迎支援を受けるなかで週3回の出勤からスタートしています。今後は、



職場の職員の方々やご家族と連携を図りながら通勤面での課題や勤務時間の延長等、継続就労とキャリアアップに向けた支援を行っていきます。



### ③ 所外洗濯作業グループに所属しているCさんとDさん

CさんとDさんはこれまでジョブサイトひむろの利用者としての立場で、近隣の施設、グリーン特別養護老人ホームさんへ出向き、衣類等の洗濯業務を行っていました。8月からは、まずは午前中の勤務のみですが、特養さんとの雇用契約（パート）が決まりました。これにより、収入面が変わることでCさんとDさんのモチベーションも上がり、職員としての意識の高まりから、より責任感をもって働くようになり、これまでより1ステップ上の働きぶりが感じられるようになりました。今後は仕事の幅、スピード、勤務時間など、いろいろな条件を見極めながら、型にはまった支援ではなく、ご本人に無理のない形で、より自由度のある中で、幅のある働き方をしていくことが目標です。

#### ◆ 今後の課題

ジョブサイトひむろの就労支援では、協働と共生の地域社会の実現に向け、いわゆるこれまでの「福祉的就労」から一般就労へという流れをつくる必要がありました。そこで、就労移行支援を選択された方には、施設内の作業場を一

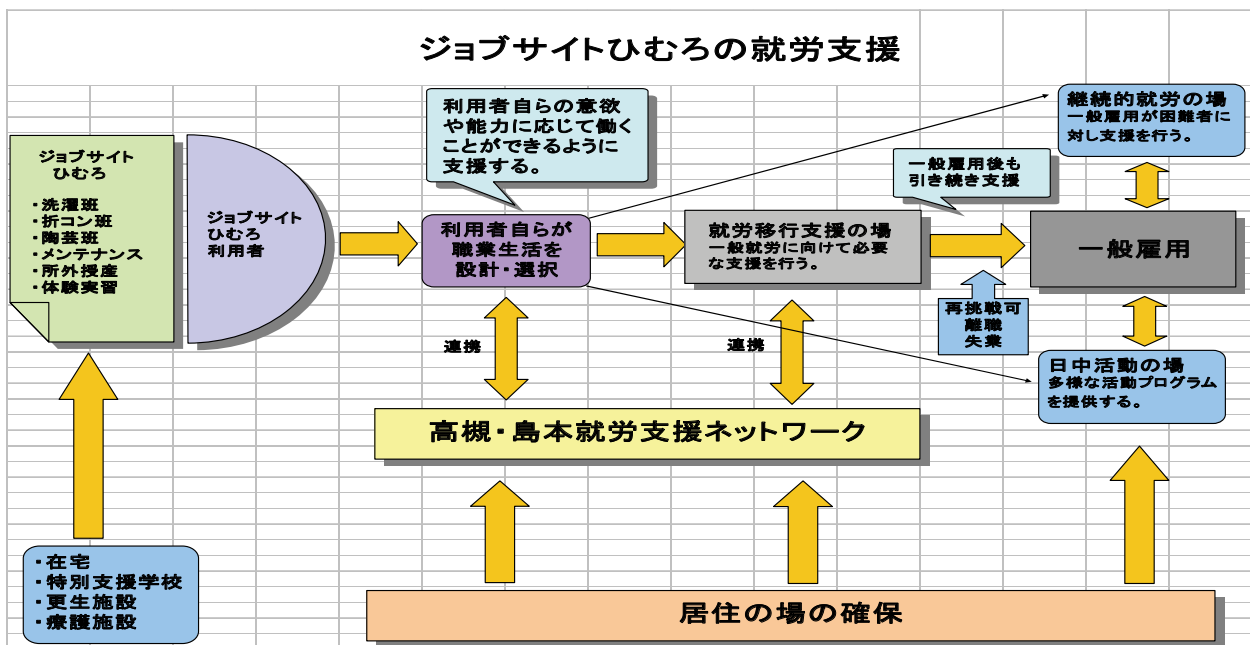
般就労へチャレンジするための訓練の場（就労移行支援の場）として位置づけ、施設としてさまざまな形態の就労を提案していく中で、利用者の方々が自ら職業生活を設計・選択できるようにし、基本的に就労にむすびつけていく流れを築いていきました。今のところ、就労移行支援では「一般就労へ」をメインに据えています。支援の両側に「継続的就労の場」と「日中活動の場」をつくり、支援の幅をもたせるとともにそれ自体を一体的に捉えるデザインにより支援を推進してきました。今後は、これらの機能を個人の特性に合わせるとともに、ひとりひとりの選択を尊重しながら、利用者主体（person-centered）の自己決定を軸とした、包括的なサービスを将来に向けて提供していくことが必要だと考えております。

したがって、日中活動の場、訓練の場、働く場といった機能に着目し、はじめから常勤・非常勤、もしくは正規・非正規、また社会保険の有無など、枠を限って就労を考えるのではなく、ご本人の自己管理が可能となるような支援を重視しています。ここでの自己管理というのは、「ひとりで出来る」ことを目標にしているのではありません。あくまで、仕事を工夫することによって仕事がしやすくなったり、作業環境の変更をご本人が提案することです。ジョブライフサポーターやジョブコーチはその変更や提案をサポートすることで、ご本人に無理のない形でステップアップできるよう支援を進めていきます。ま



た、支援技術についても、いろいろな機関や支援事業所による先駆的な取り組み、職場実習、トライアル雇用（試行雇用）、ジョブコーチ支援、週20時間以上30時間未満の短時間就労、グループ就労、就業と生活の一体的支援、ネットワークの機能を活かした地域就労支援、医療・福祉・労働との連携等の支援方法により、利用者の「働きたい」を実現するための機会が増えてきてい

るとしても、これからの就労支援に問われるのは、利用者の願いを「働ける」に変えるマネジメントの方法と技術であり、効果的なサポートを現実社会で有効に機能させる支援力の質と量であることは間違いないと考えます。その意味で、ジョブサイトひむろの就労支援はやっと今、緒についたばかりです。



#### ※ことば

○ジョブライフサポーター、第1号ジョブコーチ  
いずれも、障害者雇用促進を目的とする職場適応援助者で、障害のある方が職場へ適応するための支援を、おもに職域に出向き行う。ジョブライフサポーターは大阪府の制度、第1号ジョブコーチは、国の制度における職場適応援助者で、第1号は、福祉施設に所属する者が指定される。

○障害者就業・生活支援センター  
全国の政令指定都市・中核市に設置が義務付けられた事業所で、障害者全般の就労および生活の支援を行う。

## 「自閉症・発達障害者の特性を活かした高付加価値職域・事業の開発に関する研究」を振り返って



社会福祉法人北摂杉の子会

客員研究員 関 原 深

ふかし

### 1. はじめに

社会福祉法人北摂杉の子会では、平成 18 年度に厚生労働省障害保健福祉推進事業として、「実業を通じた自立型福祉施設の就労支援力強化に関する研究」を受託しました。この研究では、自閉症・発達障害の方々の就労力強化と必要な支援について、ランチ弁当作りの実践を通じて、成果をまとめました。この研究の中で、特に自閉症・発達障害の方は丁寧・集中力が必要とされる職務に向いていることがわかってきました。そこで、多様な業種・業態に精通している経営コンサルタントを複数交えて、可能性のある職務について検討し、現在実施している業務とほぼ同様ながら、高付加価値のものをいくつか抽出しました。

そこで、H19 年度は「自閉症・発達障害者の特性を活かした高付加価値職域・事業の開発に関する研究」というテーマで厚生労働省より受託し、想定された高付加価値職務を実習しながら、実現可能性について検討しました。

### 2. プロジェクト概要

#### ＜取り組み内容＞

高付加価値分野の 5 か所で下記の流れに沿って研修・実習をしました。

- －自閉症・発達障害者に関する情報共有（受け入れ側へのレクチャー）
- －関連する職務の紹介（支援側へのレクチャー）
- －適した職務、および環境支援策の検討
- －現場確認・現場体験・職務分析（ジョブコーチ、コンサルタント）
- －最適トレーニング場所の選定
- －環境支援準備、利用者事前準備
- －現場でのトライアル
- －振り返り、フィードバック
- －最終とりまとめ（各職務での成功の要諦）

#### ＜パートナー、および実習先＞

学校法人山口学園、および大阪大学にご協力いただき、5 つの高付加価値職務での実習に取り組みました。

#### ○学校法人山口学園

##### ＜研修＞

- \* Web デザイン：ECC コンピュータ専門学校
- \* ネイルアート：ECC アーティスト専門学校

##### ＜実習＞

「ネイルアートの Web 販売」を Web サイト構築会社に発注。そこでの商材開発（ネイルアート）、および Web 構築（Web デザイン）にて実習を実施。

#### ○大阪大学大学院医学系研究科保健学

##### ＜実習＞

- \* 司書：大阪大学図書館
- \* 検体検査：(株)日本医学臨床検査研究所

#### ○社会福祉法人北摂杉の子会：（事務系）

##### ＜実習＞

- \* 一般事務：法人本部事務所

### 3. 成果

#### ＜Web デザイン＞：3 名

12 月頃より、Web デザインに必要な技術指導（DreamWeaver、Fireworks、Flash 等の Web 制作ソフト）を ECC コンピュータ学園にて受講しました（全



Web サイト構築に取り組んでいる様子

8回)。その後の実習(2月中旬～3月末)では、3人で「ネイルアートのWebショップを立ち上げる」という想定で、Webデザイナーの指導の元、Webサイトの構築に取り組みました。

Webデザイナーの方より、それぞれが得意分野(システム構築、デザイン、パーツ作り)を分担して、ほぼ予定通り進めることができた、とのコメントを頂戴しています。課題としては、慣れてきたときの独り言や、講習でわかることだったら聞かずに進めてしまうこと等がありました。

#### <ネイルアート>1名

11月末～1月中旬まで、全8回の基礎技術に関する講義を受けました。担当講師の方からは「飲み込みが早く、細かいことが好きなので、向いている」とのコメントを頂戴しました。



講義風景

実習では、Web制作チームと連携し、Webショップに出品するネイルチップ、および同技術を使ったデコグッズを製作してもらいました。アート商材なので技術的には奥深い道のりがありますが、これだけ短期間でここまで成果を挙げている点に高評価を頂きました。今回は対象者が1人ということもあり、丁寧な指導を受けることができましたが、複数人になったときに、指導側/受講側双方が対応できるかどうかは課題と考えられます。



試作品：ネイルアート



試作品：デコグッズ

#### <司書>4名

大阪大学附属図書館の生命科学分館は、日本で2か所しかない「センター館」であり、医学系洋書雑誌の集中管理がなされているところが、通常の図書館に加えた特徴です。そこでの実習内容は、「新着図書・雑誌の配架」「返却図書の配架」「返却雑誌の配架」「複写サービスの補助」「和雑誌のバーコード貼り付け」「PC入力補助」等を1月中旬～2月末まで実施しました。

実習者の中には、司書資格を保有している方もおられ、概ね問題なく実習に取り組むことができました。課題としては、それぞれの方であるのですが、学生が相談したときの対人対応や、マナーについて課題が見受けられました。







大阪大学図書館(生命科学分館)

#### <検体検査> 1名

大阪大学教授よりご紹介いただき、株式会社日本医学臨床検査研究所にて、1月中旬～2月中旬まで検体検査のサポート業務について実習しました。

対人への極度の緊張感より、実習当初はかなりの疲れが伴っていました。また、流れ作業の現場であり、開かれたレイアウトであったこともその要因です。途中からは壁側に向かって落ち着いて仕事ができるように工夫して、徐々に業務遂行がスムーズに行えるようになりました。まじめで几帳面である点は向いているという評価を頂いているものの、流れ作業であるため、業務の連携について課題を残しました。

日本医学臨床検査研究所



本社総合ラボ



チップ立て

#### <一般事務> 1名

1月初旬より、北摂杉の子会本部事務所にて、一般事務の実習を行いました。具体的には、経理入力、支援費請求補助、チェック業務、事務所内業務(清掃、ゴミ出し、書類仕訳、等)を実施しました。元々PCスキルが高いこともあり、仕事を覚えるのが早かったこと、また、急に発生する仕事や、段取り組み換えがあっても、徐々に慣れてきて対応力が増し、いまでは一定の戦力として助かっているレベルにまでなりました。

課題としては、複数の業務を並行して進めるときの効率向上等がありました。

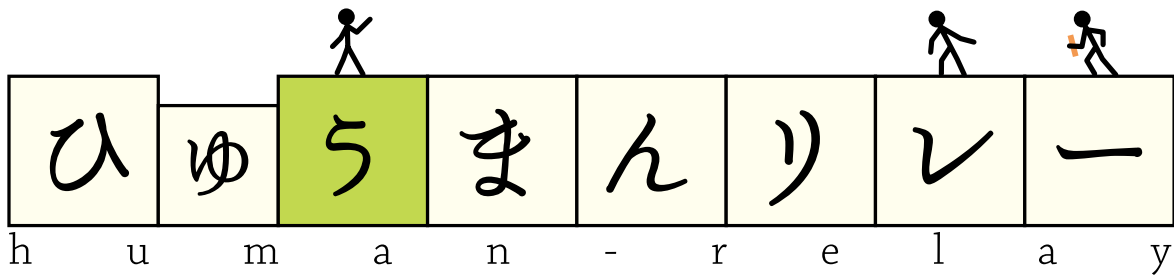
#### 4. まとめと今後の取組

研究のまとめとして整理したのは、下記4点です。

- 1) 就労レベルとの比較においては、5つの職域すべてで大きな問題はない
- 2) 受入側の配慮としては、「褒めて伸ばす」を意識し、当初段階ではまめに確認を取ることが肝要であることと職務分析後の的確な作業指示書が必要である
- 3) 職務遂行以外の課題として、社会性の中でも「対人緊張、独り言、挨拶・やりとり」をクリアしなければ一般就労は難しい
- 4) 在宅就労の可能性として、ビジネスモデルを明確化し、事前に理解しておいてもらえば、十分に可能性あり(ネイル・Web)

これらの知見を活かしながら、今後も新職域の開発を続けていきながら、利用者の皆様の可能性を拡げていけるようなれぼと思っています。

今回実習にご協力いただきました皆様、また周囲でご支援いただきました皆様にこの場を借りて感謝の意を申し上げます。ありがとうございました。



滋賀県守山市 NPO法人 関西総合福祉医療研究会 (略称 Canネット) 事務局長 乗光 秀明さんより

## 地域に生きるとは何か？

近年の障害者福祉の方向に対して、気になる点を述べたいと思います。

本来、「地域」という語は「区切られた土地」というほどの意味ですが、福祉の世界では「地域」という言葉に、コミュニティーという意味や地元、故郷、暮らしなれた町というようなニュアンスを含ませて、語感のよい言葉として用いているようです。国はこの「地域」という言葉を用いて、障害がある人や家族に何をさせようとしているのでしょうか。

地域とよく似た言葉に「自立」というものもあります。「地域に生きる」も「自立して生きる」も、とても響きの良い言葉です。

もともと「地域」という語には、「中央」対「地方」というような意味がありました。地方は中央に従属する概念です。一方で「自治体」は中央政府とは対立する概念としてありました。ところが、「地方自治」という不可解な言葉が造語されるに至って、中央に従属する地方の行政下請け機関を地方自治体と呼ぶようになったのですが、近年の障害者福祉に云う「地域」も「自立」も、これと非常に良く似た扱いを受けている言葉だと感じています。

自治とは、中央からの干渉を受けない自由な状態を言います。自立は Independent と訳されますが、アメリカの自立は、イギリスの支配からの独立という意味でもあります。しかし、日本の地方自治体に、中央から自立した自由があるとは誰も考えていないでしょう。だからこそ三割自治と云われているのですが、同じように、国が言う「地域」に、どんな生活上の自治や自由があるのでしょうか？私は、自治や自由について勉強したり、自立の意味を考えたりする度に、国が進める福祉の「地域化」に、深い憂慮を覚えてきました。

自立という言葉の対立概念に「パターナリズム＝父権主義」というものがあります。自立では、自分で考えて決めるというお作法が何より基本になりますが、こともあろうに「自立を支援する法律」は、お上が勝手に決めて国民

に押し付けました。自立の仕方を中央のオヤジが押し付けるなんて、パターナリズムの見本でしかありません。国際障害者年の完全参加が求めたのは、どんな制度も法律も、当事者の参加なくして作ってはいけないという原則でした。ですから、出来上がったものの善し悪しとは関係なく、手続きのお作法が、まず自立を踏みじったということで、余りのお行儀の悪さに、当事者である福島委員が怒られたのも当然です。

翻って、「地域」はどうでしょう。地域で生きるための「地域」にどれほどの自治とコミュニティーが紡がれているのでしょうか。かつてはパラマキ福祉といわれました。そして、今は押し付け地域福祉です。自治とは、その町に住む人々が自らの理念と方針の下に、その施策財源や政策決定権を自らの手にすることです。こんな単純な論理に目を伏せたまま、地域という流行に下手に乗ると「自立」ではなく「孤立」がテグスネ引いて待っているはずで

す。生活施設という集団から離れて地域で暮らせば、数倍のコストが掛かります。国が云う地域生活とは、家族と地域住民の無償労働力を頭から当てにした安上がり政策を言い換えたものでしかありません。こんな時こそ、地域とは何か、自治とは何か、生きるとはどういうことか、自立的であり共生的もある暮らしのありようとはどんなものなのか、自問し直す時なのではないでしょうか？

さて次は、栃木県宇都宮市で重い障害がある方々や子供たちの在宅医療を推進する医師、高橋昭彦さんにご登場いただきたいと思います。高橋さんが主宰する「ひばりクリニック」では、先ごろ重症障がい児者レスパイト施設「うりずん」を赤字覚悟でオープンされました。ひたすら前へ！まえへ！が信条の熱血医師の奮戦記にご期待下さい。





萩の杜

生活支援課主任 黒木 由希子

## I、はじめに

萩の杜は、定員 50 名（男性 38 名、女性 13 名の現在 51 名）の知的障害のある人たちの入所施設です。居住の場は男性 3 グループ、女性 1 グループのユニットに分かれています。日中は敷地内の作業場や地域の作業場に行き活動されています。

今回は、「問題行動の理解と支援 (3)」として、Aさんの事例を紹介します。

## II、Aさんのプロフィール

男性、46 歳、知的障害をとともう自閉症、障害程度区分 6、2003 年入所。支援員とのやりとりは、ほとんど言葉にて行なっています。簡単な日常会話は理解しておられ、身のまわりのことは自立しておられます。

好きなことは路線地図など電車に関すること、ゴロゴロすること、外出（買い物、食事）、昆虫図鑑、銀行合併のこと、製薬会社に関することなどです。

嫌いなことは注意されること、行動を止められること、怒られること、失敗、変化や変更などがあります。

普段は穏やかな方なのですが、情緒が不安定になったときには、粗暴な行為がみられます。

## III、問題となる行動について

<問題となっている行動>

- ① こだわり：他人の部屋に入り、テレビのチャンネルを変える、カーテンの開閉などをおこなう。
- ② 自傷他害行為：情緒が不安定になったときに、大声をあげたり、自傷行為や他害行為がみられる。また、物にあたることもみられる。

<なぜ、その行動が起こると考えるか？>

- ① 自閉症の特性である、「こだわり」によるもの。
- ② 自分の思い通りにならない。注意されたり、怒られたりして気持ちが落ち込んでいく。いらいらしている。失敗をしてしまった。混乱してしまったり気持ちをどう表してよいかわからない、などの情緒の不安定さ。支援員への注意獲得。

## IV、課題の整理

Aさんの一日を見てみると自由時間（＝何もすることがない時間）が多く、よく部屋から出てきていました。廊下を歩いているうちに他人の部屋が気になり、そこで自分のこだわっている事がらに執着していました。また情緒が不安定な際には粗暴な行為もみられました。それらの行為を支援員から注意されたりすることで、さらに不安定な状態になることもよくみられました。

そのような中で、まずはこの何もすることがない時間帯に活動を入れ、意味のある活動を作っていくことにしました。

- ① どこまで言葉がわかっているのか、指示理解（言葉と文字の理解）チェックをする。

Aさんと我々支援員は、ほとんど話し言葉やジェスチャーを使ってコミュニケーションをとっています。言葉をどの程度を理解しているのかという指示理解チェック（言葉や文字を使っての指示で、名詞や動詞などの理解をしているかをチェック）をしました。

その結果、生活で使っていない言葉や経験の無い事がら、複数の指示の理解は難しい・非日常的な指示や複数の指示の理解が難しい・検査中も関心のあるものに注目してしまい集中が続かないなどの結果がみられました。そのため、言葉や文字の指示で概ね理解は出来ているが、少しレベルを落とした指示のほうが理解しやすいという評価をおこないました。

- ② 自由時間に何をするか、活動内容の設定。

何もすることがないときに、他人の部屋に入ってしまうため、集中して机に向かって出来るようなもの（自立課題）をいくつか考え試してみました。

自由時間に「宿題です」と問題用紙を渡すと、抵抗なくその問題用紙を受け取られました。ゆっくり、穏やかに問題を読まれ、特に電車に関する問題を目にすると、それにひきつけられるように問題に取り組みれていました。問題に記入している間は、出来

るだけ支援員が付き添い、わからないことがあったらすぐに正しいやり方を教えられるようにしました。内容はパズル、電車に関する問題、簡単な足し算・引き算などを試しました。1つの自立課題は10分程度で終了するように、自立課題の内容と量の調節を行ないました。興味を示した内容についてそこから問題のバリエーションを増やし、同じタイプで違う内容の自立課題をなるべくたくさん用意しました。

また、自立課題が1回終われば「ハンコ」を押し、24個たまれば（Aさんの帰省日前に合わせた個数）買い物に行くという設定をおこない自立課題への動機を高めるように工夫しました。

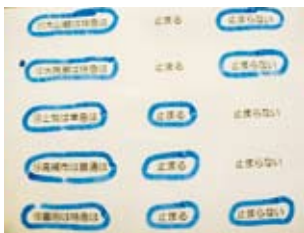
【自立課題・ハンコ表】



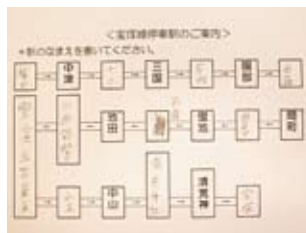
<電車あわせ>



<Aさん好きなもの>



<私鉄停車駅>



<私鉄路線地図>

③ 「宿題」をどの場所とするのか、活動場所の明確化。

指示理解チェックで「関心のあるものに着目してしまい気がそれる」ということから、部屋の中を整理することにしました（活動場所の明確化）。もともと部屋自体が狭く

ベッド・たんす・テレビ・食事の時に使用する小さい机・そのほかのこまごましたもの（Aさんの興味関心があるもの）が置いてありますので、空いている空間は限られています。

まず自立課題をおこなう場所を作り出さなければなりません。しかしここでもご自分なりに物の位置が決まっており、例えば、食事をするときの机の上にいつも電車の本・プラモデル・お道具箱が置いてありました。机を使用する時はいちいちそれらのものをどこかに移動させなければなりません。今まで、専用のかごを用意してその中に入れてもらうよう指示することや、置き場所に印をつけてその中



<ハンコ表>

に置くように提示してみましたが、それらのところに置いてあるのは支援員が促したときだけで、いつの間にかまた元通りに机の上に戻っていて、ベッドの上で食事をしているということもありました。

部屋を整理するためにレイアウトを考えていたときに、机の上を改めて見てみました。すると以前印としてつけていたビニールテープの跡が、うっすら残っていることに気づきました。その印をきれいに拭きとって、Aさんに以前と同じように机の上においていた物を別の場所に置くよう促してみると、何の抵抗もなく指示された場所に置き、それ以来動かすことがなくなりました。以前試したように、新しくかごを用意したわけでもなく、指定する場所に線を引いたりするわけでもなく、机の上でうっすらと残っていた線の跡を消すだけで机の上には何も置かなくなりました。

私たちが気にもしていなかったわずかな線ですが、Aさんにとっては物を置く手がかりとして「線の残骸」が、新しいかごや新しい線よりも強く機能していたのでした。そしてそれを取り除くことにより、新しいものに視線が移るようになったのでした。

自立課題を置く場所は机の位置をすこしずらしてその横に3段ボックスを並べておくことにしました。このレイアウトに関してAさんは特に気にはされず、すつと受け入れてくれました。その際、一番動かすと思われた机の脚のところに「枠」を書いておき、机の脚はそこに合わせてもらうようにしました。

【活動場所の明確化・自立課題を置く場所】



<変更前>



<変更後>

④ 「宿題」はいつ行うのか、スケジュールの作成  
活動内容と、活動をする場所を作り出したところで、次



<枠>

どの時間帯に行なうのか決めました（スケジュール作成）。その際、「概

ね理解は出来ているが少しレベルを落とした指示の  
ほうが理解しやすい」という指示理解チェックの結果より、スケジュールへの表記方法は以下のよう  
にしました。

時間提示は「アナログ（時計版）」ではなく「デ  
ジタル（数字）」で表示。Aさんが使用している言  
葉で表記。支援員が「宿題」と言ってAさんに渡し  
ていた自立課題をAさんは「お勉強」と話されてい  
たため、自立課題のことは「おべんきょう」と表記  
しました。お勉強のモチベーションを上げるために  
（動機付け）、「支援員とノートを書く（Aさんにとっ  
ては好きな時間）」時間を「おべんきょう」の後にもつ  
てきました。また、スケジュールを作成するにあたり、  
Aさんに提示した時間に支援員がきちんといける  
ようにするため、Aさんの動きと支援員の動きの  
擦り合わせを行い、時間の提示は慎重に行いました。

### ⑤ その他

＊生理的生活の基盤を安定させる。

Aさんの朝は早いと午前3時頃から始まります。  
平均睡眠時間は5時間前後です。情緒の乱れは睡眠  
と関係していることも考えられるため、これまでも  
萩の杜で睡眠に関して投薬調整を何度か行ってきま  
した。しかし様々な理由で中止していました。  
例えば、薬を飲んで寝ているので寝ぼけてしまい  
「おねしょ」をしてしまうことがありました。失敗  
が苦手なAさんにとっては「おねしょした～！  
あーっ!!!」とそこから不安定になることもみられ  
ました。しかし今一度睡眠の確保を図ろうと、保護  
者・看護師・医師と相談し一定の時間で眠れていな  
い場合は、頓服薬を服用してもらい生理的生活基盤  
を安定させるよう見直すことにしました。

＊パート職員との連携

グループは、支援員一人でもわしているのではあ  
りません。パート職員と2人でお互いに任せるとこ  
ろは任せて、交互に動いて全体を把握しています。  
新しい取り組みを始めるときは、支援員の動きはい  
つもと変わってきます。また、このケースについて  
はパート職員の業務内容が一部変更になるところが  
出てきたため、その理由と内容を伝えながら取り組  
みました。支援員とパート職員の連携も支援を円滑  
に進めて行く上では重要なものになります。

### V、支援の実際

約2週間の準備期間（IV、①～⑤）を経て、実際  
に取り組みを始めました。

最初の1日目は、情緒面では状態があまり良くな

### 【スケジュール】

18:15まで 洗濯物を片付ける	6:45 入浴
18:15 食ごはん	7:00 リボピタン
18:35 虫歯	7:20 おべんきょう
19:10 おべんきょう	8:00 朝ごはん
19:40 職員とノートを書く	8:15 朝の服
20:10まで TV ビデオ ベッド	8:20 歯みがき
20:10 くずし	8:30 おべんきょう
20:15 おべんきょう	8:50 職員とノートを書く
20:40 職員とノートを書く	8:55 TV ビデオ ベッド
21:30まで TV ビデオ ベッド	9:30 散歩
21:30 寝る前のくずし	

かったのですが、支援員と一緒にスケジュール  
に沿って行動することが出来ました。しかし2日  
目は「これではとてもできない！この取り組みは失  
敗か!？」というほどAさんの状態が良くありませ  
んでした。原因の一つには、前日からあまり情緒面  
での状態がよくなかったことありますが、「おべ  
んきょう」中にペンのインクが出なくなったとい  
うことがありました。1日目はきちんと支援員が付き  
添い教えることができたのですが、2日目は付き添  
うことが出来ませんでした。Aさんが何故不安定に  
なったのかがすぐに気づくことができず、「失敗に  
弱い人」なだけに、大きく崩れてしまったと思われ  
ます。本来であれば新しい取り組みを行なうとき  
には、Aさんに付き添って正しいやり方を教えてい  
かなければならないのですが、準備や会議には時  
間をやりくりして取り組みを開始するまでに至れま  
したが、現場をまわす時間帯に支援員を一人増や  
して付き添いに当てることが出来ませんでした。

グループ内はAさん1人ではありません。そのこ  
とを見込んでスケジュールを立てたのですが、Aさ  
んの情緒の不安定さが大きく、新しいことをするの  
により環境というものが作り出せませんでした。3  
日目は、2日目ほどではありませんでしたが、やは  
り不安定で、自立課題の量を調節したり、気に入  
っているであろう内容のものを選びました。『おべ  
んきょう嫌そう・・・、悲しい表情をしているなあ…』  
とその日のケース記録には記されていました。4日  
目は少し情緒も持ち直して帰省を迎えました。

5日目、良い状態でご家庭より戻ってこられまし  
た。いつもは自宅から萩の杜に戻られた日は、Aさ  
んなりの「準備」が多くなかなか入浴時間帯に間  
にあわなかったのですが、この日も時間が遅くなっ  
たため、スケジュールに「入浴中止」と記入するとそ  
の日は入浴をされませんでした。「変更弱い人」  
ですが、状態が安定していて指示が入りやすかった

ことや、視覚での提示で納得されたようでした。その日は「おべんきょう」も進み、なんの問題も起きませんでした。その後も比較的落ち着いて取り組まれていることが目立つようになりました。

最初の買い物は、「日記帳を買いに行く」としていました。まだ「おべんきょう」→「ハンコ」→「買い物」というシステムは理解できていなくて、「ジュース買う？」と何度も繰り返していました。しかし、その日はAさんにとっては残念？ながら、日記帳を購入して戻りました。

#### 1 週間新しい取り組みをして

1、自立課題については内容を豊富にしていき、Aさんが不調な時には柔軟に内容を変更し、量を調節することになりました。2日目・3日目の自立課題をしているときの不安定状態は「おべんきょう」自体を嫌がっているわけではなく、本人の情緒面によるものが大きかったのではないかと、「おべんきょう」自体はむしろ動機なしでもできる楽しいものになっているのではないかと、という結論が出ました。電車関連の字や薬の名前など、自立課題にAさんの関心のあるものがあると一気に表情がほころんでいました。自立課題の問題が分からなくても、分からないことに関して混乱を招くことはなく、なんとか興味のある所の字を拾い、Aさんなりに答えを出していました。

2、変更ができたり、全てではないが時間通り行動している事があり、スケジュールのシステムは理解しているのではないかと考えました。

3、「ごほうび」のシステムはまだ理解していないと思われました。「ごほうび」のシステムを理解して貰うため、短い間隔で回数を重ねる、ハンコがたまる数を最初は一週間ぐらいで設定、システムを理解してもらったところで数を増やしていく、一ヶ月に1回の目安で外出を考えることになりました。

#### VI、今後の課題

新しい取り組みを始めて、約1ヶ月が経過しています。スケジュールを導入し活動を取り入れたことで、居室で過ごされる時間が増えていきます。集中している時は約1時間弱部屋から出てこず、ゆっくりと自立課題に取り組んでおられます。そのことで、スケジュールに記入されている活動の時間が遅くなくても混乱をすることはみられていません。

他人の部屋に入ることが以前より少なくなったため、支援員から注意されることも少なくなり、他の利用者とトラブルになる機会も減少しています。

また、活動を行ったことで支援員から褒められることが多くなり、支援員とノートを書く機会も増えたことから、ゆったりとした表情で過ごすことが多くなってきました。なによりAさん・支援員ともに気持ちにゆとりができ、良い方向で向かい合っていることが多くなりました。支援をする側の心のゆとりはとても大切なものであると思います。

3回目の「ごほうび」の買い物では、「ジュース？」と問い返すこともなく、ご自分で決めた「昆虫の本」をめがけてまっしぐらにコーナーに進んで行っておられました。一人で本を選び、できるだけ一人で支払い、とても良い表情で買い物をされて、その間はずっとニヤニヤでした。

その後自立課題が終了してハンコを押すときの表情や、活動が終わったらスケジュールを目で追って確認している姿を見て、ご褒美のシステムが理解され始めているのではないかと感じています。

他人の部屋に入ったり、物を動かしたりという「こだわり」はなくならず、相変わらず続いています。それをただ注意するだけでなく、障害の特性を理解したうえで環境を整理し、支援を行っていかないと何も積みあがっていきません。理解することからやっと支援が始まって行くことと改めて感じています。

これからも引き続き、障害特性を理解したうえでの支援と情緒面（医療面）からのアプローチで生活全体の安定につなげていきたいと思っています。

取り組みをはじめてからの日が浅く十分な効果はまだ分かりません。しかし大切なことは支援する側が一方的におこなうのではなく、Aさんの今の姿を見て、不都合であれば変更し、上手くいくように考えなおし、実行する。そしてまたその姿を見て…を繰り返して行くことであると思います。今後もAさんとともにグループで奮闘していきたいと思っています。

## 施設からの飛び出しがみられる 重度の知的障害を伴う自閉症の方への余暇支援



萩の杜  
生活支援課 <sup>たか</sup>高 <sup>ぎ</sup>木 <sup>かず</sup>一 <sup>や</sup>矢

### 1. はじめに

問題行動という、その行動にとらわれ困り果ててしまうことがよくありますが、その背景を探り、本質の部分に働きかけることが必要です。それは、環境の問題であったり、障害特性からきていることが多く、支援者の誤った対応により更に問題行動が激化してしまうこともしばしばです。

この度は、2005年度にモデル施設サポート事業の一環として、個人の持つ強みを活かして、適切な行動を支援し、問題行動の軽減につなげていった事例を紹介させていただきたいと思います。

### 2. Aさんの概要

Aさんは萩の杜に入所している35歳の男性で、重度の知的障害を伴う自閉症の方です。その障害特性から、一定の生活リズムを好み、変更など普段のパターンが崩れることを極端に嫌がる傾向にあります。また、時間の概念がわからないため、活動が前倒しになることがあり、自分のしたい行動に対しては、直接行動でおこなうことがよくあります。

### 3. 缶飲料に強いこだわりをもつAさん

Aさんは学齢期の頃より、自動販売機で缶飲料(特に缶コーヒー)を購入することへのこだわりがあり、施設入所してからも、週末は自宅に帰省する度に缶飲料の購入は続いていました。年々、購入本数は増える一方となり、多い時には1泊2日の帰省で、購入本数が100本を超えることもありました。

そのことで、ご家族の負担は大きく、ご家族と支援スタッフで検討した結果、Aさんの週末帰省をなくし、基本的に施設生活を送ることで、缶飲料という刺激を遮断することになりました。自動販売機より切り離された生活を送ることで、缶飲料を購入する機会は必然的に減りましたが、その影響からか、施設より飛び出して自動販売機に向かい、近隣のご

み箱より空き缶を探そうとすることが目立っていました。

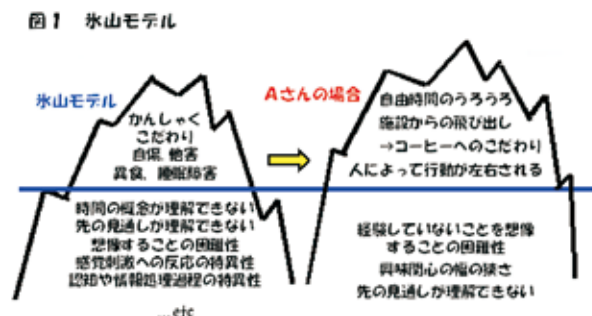
この行動はAさんにとって生命の危険に関わることでした。施設より飛び出す際に2階より飛び降りることや、危険認知が困難なため突発的に道路に飛び出し、いつ事故につながるかもわからない状態となっていたのです。

### 4. 施設から飛び出す背景の考察

Aさんの飛び出しについて、どんな状況や時間に見られるか等、日々観察しながらデータをとっていくことにより、飛び出すきっかけがあることがわかってきました。

まず1点目は、夕食後から就寝するまでの自由時間です。Aさんにとっての自由時間は何もすることがなく、生活空間内をうろろろとしている状態でした。2点目として、特定のスタッフが対応すると飛び出しが頻出しているということです。人によってAさんの行動は左右されており、飛び出しにつながっていました。

まずは、基本に立ち返り、Aさんの障害である自閉症の特性を振り返ることから始めました。表面化している「飛び出し」「缶飲料へのこだわり」等といった目に見える行動の背景には、どういった特性がからんでいるのか、冰山モデル(図1)から探っていきました。この冰山モデルをAさんに置き換えると「自由時間にうろろろしているだけ」というこ



とは「経験していないことを想像することが難しい」という特性から、「自由時間に何をしてもいいかわからない」ということがうかがえました。

また、「飛び出して自動販売機に向かう」ということは、「興味の幅が狭く、特定の物事に没頭してしまう」という特性から「缶飲料へのこだわり」に繋がっていると考えられました。

「特定のスタッフにAさんの行動が左右される」ということは「先の見通しが立たない」ことから、「次にどんな活動が待っているのかわからない。結果として、人を手がかりとした生活を送っている」ということが考えられました。

## 5. 支援計画の作成

自閉症という障害や知的障害があることから、自分の思いを伝えることができないAさんにとって、どんな潜在ニーズがあるのかということ、上記のように行動の背景を探った上で、支援計画の作成に移りました。

第1に「経験していないことを想像することが難しい」ため、自由時間に活動を組み立てる必要があり、余暇の充実を目標として掲げました。

第2に「先の見通しが立たず、人が手がかりとなっている」ことから、1日の生活の流れ(＝スケジュール)を提示することで、Aさんが自分自身で生活に見通しをもつことができることを目標として掲げました。

個別支援計画書(今年度目標と実施課題)		作成日: 2005年6月3日
実施機関: 社会福祉法人北摂杉の子会 萩の杜	利用者名: Aさん	作成者: B
【今年度目標】		
①活動の幅を広げ、より充実した生活を送りたい。 ②生活に見通しを持って、自立した生活を送りたい。		
【実が宿課題】		
課題①	生活グループ内での活動のレパートリーを増やします(活動の提供と組み立て)。	
理由	現在、生活グループ内において、自由時間C Aさんが取り組むことのできる活動の提供が非常に少なく、意味のある活動を増やす必要があります。	
具体的な進め方	実施期間:	6/5 ~
	実施場所:	リビング
	① Aさんが楽しんで取り組めそうな余暇活動を20種類程度リストアップします。	
	② 20種類程度の余暇活動をAさんに行っていたいただき、その中から活動内容を決定します。	
	③ 余暇活動スペースの設置、実施時間・動線の検討・決定を行います。	
④ 余暇活動をAさんに実施していただきます。		
⑤ 実施の中で出てきた自立を阻害する課題点をクリアにします。		
課題②	生活グループ内でスケジュールの導入・定着を図ります。	
理由	生活に見通しを持ち、自立した生活を送る必要があります。	
具体的な進め方	実施期間:	6/9 ~
	実施場所:	生活空間内
① 具体的な物の写真や活動の場所の写真を用意・設置します。		
② スケジュールの使用方法をAさんに伝えます。		

## 6. 支援の組み立て

自閉症という障害は、時間や言葉などの目に見えない抽象的な概念の理解が難しい、注意の向け方が違う(情報の取捨選択ができないことや、細部が見

え過ぎ全体像を見ることできない等の理由により、必要な情報に目を向けることができない)、応用が難しい等、生活を送る上でさまざまな困難性がみられる反面、目に見えること、具体的なことの理解や、興味がある特定の事柄、一度覚えたことへの理解等への素晴らしい強みも併せ持っています。それを活かして支援を下記のように組み立てました。

### (余暇支援の組み立て)

まずは、Aさんがどのような余暇活動をしたいのかを探っていくことから始めました。Aさんの興味・関心や得意なスキルを探るために約20種類の様々な活動を提供しました。体を動かす活動として、トランポリン・ダンス・なわとびを、また、手先を使った活動として、パズル・貼り絵・ブロック等を提供しました。普段より音楽等に合わせて体を回転させることや、リズムをとることがあったので、体を動かす活動を提供したのですが、一人で長く続くということが少なく、再検討に至りました。手先を使う活動については、Aさんの手先の器用さ、道具の使用が可能、一つ一つ丁寧に行うという点や、実施する余暇活動が具体的で見通しがつきやすいことから、体を動かす活動とは違い、最後まで取り組む姿勢が見られました。そのため、余暇活動として手先を使った活動を取り入れることになりました。

次に、Aさんが余暇活動に取り組む際に、いつ、どこで、どのように行うのか、動機付けが必要かどうかを検討しました。余暇活動を提供する時間については、特に飛び出しの多く見られた時間である夕食後の自由時間に設定しました。場所は、導入期ということもあり、スタッフの目が行き届くリビングに余暇スペースを設置しました。どのように実施するのかについては、最終的に一人で一定時間過ごせることを念頭に置き、何を・どのように・どのくらいするのか、終わったら次に何をするのかといった一連の必要な情報を、Aさんの強みである目で見て理解できるように、余暇活動スペースの環境を整えました。

また、Aさんが飛び出す理由として缶飲料へのこだわりがあったため、その代替としてコーヒーを用意し、余暇活動が終了したらコーヒーが飲めるという形で動機づけを高める用意をしました。

### (生活の流れの組み立て)

Aさんに余暇活動を設定しても、時間の概念の理



解が難しいAさんにとって、いつ余暇活動をするのか予測はつきません。また、人を手掛かりにした受け身な生活になっていることもあり、時間（活動）の流れを自分自身で理解し、自立した生活を送ってもらうことが必要でした。これも余暇活動と同様に、自閉症の人の特性である目で見えて理解することに強いことを活かし、生活場面で使用する具体的な物の写真や活動の場所の写真を提示し、時間の流れを目で見えてわかるようスケジュールを作成しました。

## 7. 支援の実施

一日の生活の流れをAさんにわかるようにスケジュールを通して伝えていきました（余暇活動の取り組みも、スケジュールを通して伝えました）。

余暇活動の初日は、途中退席が目立ち、混乱しているようでした。何とか取り組んだ後、動機付けを高めるために用意していたコーヒーは満足気に飲んでいました。

2日目からはAさんの行動が一変しました。自ら進んで余暇活動に取り組み、途中退席することはありませんでした。初めてのことに對する弱さ、しかし、経験したことには強い自閉症の方の特性がうかがえる瞬間でした。

この後も意欲的に余暇活動に取り組むAさんでしたが、スタッフの指示を必要とすることが多くありました。これでは、受け身な生活は変わりません。また、自分自身で行ってもらうことで、達成感を高め“一人でできる”という自尊心を育てていくためにも、やはり、自立して余暇活動に取り組むことが必要でした。

Aさんの行動を観察し、どこに難しさを感じているかを探るなかで、余暇スペースを目で見えて分かる環境に整理していても、必要な情報に目を向けることができているということがわかってきました。そのため、視覚的な情報を本人の目線に合わせることで、Aさんが必要な情報に目を向けることができるように配慮しました。このように、その都度、Aさんにとって難しいと感じている部分を整えていくことにより、4週目に入った頃には、Aさんは余暇活動を自立して行うことができるようになっていました。

## 8. 結果

うろうろしているだけの自由時間にAさんの興味関心・得意な活動を提供することで、何をしてよ

いのかわからなかった時間が意味のある時間へと変わっていき、結果として、施設からの飛び出しは減少しました。つまり、適切な時間の過ごし方を理解することができたということです。更に、缶飲料の代わりとなるコーヒーという動機付けもあったためか、意欲的に活動に取り組むことができています。

また、スケジュールを提示することにより、「いつ・どこで・何をするのか」を理解することができるようになり、人を頼りにせず、自分自身で見通しを持って、自立して過ごすことができるようになりました。

現在では、Aさんの自立に伴い、自室で余暇活動に取り組んでいます。また、夕食後だけでなく、午前中の自由時間にも余暇活動をおこない、生活が以前よりも充実したものとなっています。

## 9. まとめ

我々にとって自由時間というと、自分自身が自由に使ってよい時間（＝楽しみ）をイメージしますが、余暇を過ごす手立てがない（余暇スキルが弱い）Aさんにとっては、何をしてよいのかわからない時間となっており、結果として、こだわりとなっている缶飲料へ注意が向きやすい時間になっていたものと考えられます。また、人を手がかりとした受け身な生活を送る中で、Aさん自身のこうしたい・こうでありたいという主体性は制限されており、そのため、特定のスタッフが対応する際に、Aさんの抑えられた気持ちが爆発し、行動が左右される結果になっていたのではないのでしょうか。そういった意味では、「Aさんの立場に立った支援を行えていなかったのでは」と、今までの支援を振り返りきっかけになりました。そもそも、缶飲料という刺激を遮断するために帰省をなくしたことも、Aさんの本当の思いは二の次になってしまっていたと思います。

支援者側の視点で、問題を考え、物事を見ていきがちですが、やはり、生活の主体は誰なのかということをもまずは考えなければいけません。本人主体の支援を展開していく中で、その人を理解すること、表面の行動にとらわれずに、その背景を見つめ、その人の強みを活かして、適切な行為を伝えていくことが必要です。

障害者をこちらに歩み寄らせるのではなく、特性を理解し、こちらから歩み寄る視点が大切だと思います。

# お知らせ

## ■ 発達障害者の日中活動・就労準備支援モデル事業所を開設いたしました。

大阪府の委託を受けて8月に、「大阪府発達障がい者日中活動・就労準備支援モデル事業所」を大阪市淀川区十三に2年間の期限にて開設いたしました。在宅で未就労の発達障害のある成人の方のための、就労前段階の支援プログラムの開発を目的としたモデル事業で、本年度は半年間で10名の方を対象として事業を開始しております。

詳しくは、次号でお知らせする予定です。

大阪府発達障がい者日中活動・就労準備支援モデル事業所  
〒532-0023  
大阪市淀川区十三東2丁目6-8 高田ビル201  
TEL 06-6100-0262  
FAX 06-6100-0282

## ■ つきのき・かしのき統合施設(仮称) 開設準備室を設置しました。

高槻市立つきのき学園および市立かしのき園を統合した障害者複合サービス施設を来春開設することについて前号にてお知らせしましたが、サービス開始に向けての準備室を9月に設置いたしました。

ご利用をお考えの方、お問い合わせは下記準備室連絡先まで。

開設準備室

電話：080-3730-1537

メール：junbishitsu@suginokokai.com

案内パンフレットのご用意もできております。ご希望の方は法人本部事務所(072-662-8133)までお気軽にご利用ください。

## 法人設立10周年記念事業講演会Ⅱの お知らせ(再)

前号にて法人設立10周年記念事業の概要についてお知らせをいたしましたが、記念講演会Ⅱについて、時期が到来し詳細が決定しておりますので、次のとおりお知らせをいたします。

テーマ 『発達障害者の生涯にわたる一貫した支援』  
～成人期の課題から考える～  
日時 2008年10月29日(水)  
10:00～16:00(開場9:30)  
会場 高槻現代劇場 中ホール  
(JR高槻駅より徒歩12分、  
阪急高槻市駅より徒歩5分)  
内容 <午前>  
成人期の課題点からみる今後の展望(実践報告)  
「アクトおおさか相談支援事業からみてきたもの  
～成人期のニーズとサービス～」  
報告者：古東千鶴(アクトおおさか)  
「就労支援への取り組み ～多様なニーズに  
合わせた支援の在り方を考えて～」  
報告者：佐々木祐介  
(ジョブサイトよど 就労支援担当)  
幼→小→中の移行モデルへの取り組み(実践報告)  
報告者：石村和彦氏(和泉市教育委員会)  
支援学校の学部間での連携(実践報告)  
報告者：村中夕可里氏・井上雅啓氏  
(大阪府立富田林支援学校)

<午後>  
就学に向けての取り組み～療育から園、  
そして学校へ～(実践報告)  
報告者：中野麻衣子  
(自閉症療育センター will)  
シンポジウム 『障害にわたる一貫した支援の創造』  
シンポジスト  
関水 実氏  
(横浜市発達障害者支援センター センター長)  
植田剛司氏  
(大阪府健康福祉部障がい保健福祉室  
自立支援課課長)  
石村和彦氏  
(和泉市教育委員会 指導室 指導主事)  
山本俊樹氏  
(大阪府立富田林支援学校 中学部教諭)  
内藤孝子氏(全国LD親の会 会長)  
コーディネーター  
新澤伸子(アクトおおさか)  
主催：社会福祉法人北摂杉の子会  
後援：大阪府 大阪府教育委員会 高槻市  
高槻市社会福祉協議会 大阪市  
大阪知的障害者福祉協会  
日本発達障害ネットワーク(JDDネット)

お申込み方法 お申込書をご記入の上に072-662-8155までfaxください。  
お申込書はホームページ(<http://suginokokai.com/ivent/>)より印刷いただけます。  
お問い合わせ 072-662-8133 法人本部事務所

# 掲 示 板 コ ー ナ ー

(平成 20 年 6 月から平成 20 年 8 月まで)

## 法人本部総務部掲示板

- |       |   |  |
|-------|---|--|
| 6月 2日 | 経営会議  | (仮称) つきのき・かしのき統合施設の進捗状況について  |
| 5日    | 法人設立 10 周年記念事業企画調整会議<br>(5月7日、5月21日、5月30日実施)  | 萩の杜生活介護棟建設について   |
| 7日    | 福祉の就職フェア出展 於 なんば 大阪府立体育館  | 人事考課について   |
| 18日   | 将来構想検討委員会 (チーム SS)<br>ケアホーム建設について<br>・勉強会の件・見学会の件・収支の件<br>・土地の件   | 25日 法人設立 10 周年事業 企画チーム会議<br>平成 21 年度 4 月入職 内定者研修参加 14 名  |
| 19日   | 法人設立 10 周年記念事業企画チーム理事長<br>ヒアリング   | 29日 第 52 回理事会 会場 法人本部<br>決議事項<br>第 1 号議案<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設新築<br>工事入札参加業者の決定並びに現場説明要項の決定について  |
| 24日   | 運営会議<br>法人設立 10 周年記念事業実行委員会について<br>将来構想検討委員会 (ケアホーム建設) について   | 第 2 号議案<br>(仮称) 萩の杜生活介護棟建設について   |
| 7月 4日 | 第 51 回理事会 会場 法人本部<br>決議事項<br>第 1 号議案<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設の建設<br>並びに開設に向けての活動について   | 第 3 号議案<br>(仮称) 萩の杜生活介護棟建設に係る公告<br>事項について  |
|       | 第 2 号議案<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設建設に<br>伴う設計監理業者の選定について   | 8月 4日 経営会議   |
|       | 第 3 号議案<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設建設<br>に伴う新築請負業者選定方法並びに入<br>札業者の適格条件について  | 7日 法人設立 10 周年記念事業 企画チーム会議  |
|       | 第 4 号議案<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設建設<br>スケジュールについて   | 11日 第 53 回理事会 会場 法人本部<br>決議事項<br>第 1 号議案<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設新築<br>工事予定価格の決定について  |
|       | 第 5 号議案<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設建設<br>に係る公告事項について  | 20日 将来構想検討委員会 年央全体会<br>ケアホーム建設について<br>授産事業について<br>余暇活動について   |
|       | 第 6 号議案<br>独立行政法人福祉医療機構からの借入について  | 21日 第 54 回理事会 会場 法人本部<br>決議事項<br>第 1 号議案<br>(仮称) 萩の杜生活介護棟建設工事入札参加<br>業者の選定並びに現場説明事項の決定に<br>ついて   |
| 6日    | 平成 21 年度新卒採用筆記試験<br>於 高槻市商工会議所  | 26日 運営会議<br>平成 20 年度第 2 回法人全体研修について<br>大阪府発達障がい者日中活動・就労準備モ<br>デル事業の件<br>萩の杜生活介護棟建設の件<br>法人設立 10 周年記念事業の件<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設の件<br>療育グループ公開講座の件 |
| 7日    | 経営会議  | 26日 (仮称) つきのき・かしのき統合施設建設<br>入札 於 高槻現代劇場  |
| 8～9日  | 平成 21 年度新卒採用面接試験<br>於 高槻市商工会議所  | 27日 法人設立 10 周年記念事業 企画チーム会議   |
| 16日   | 将来構想検討委員会チーム SS 勉強会<br>「ケアホームについて」<br>高槻市立生涯学習センター研修室にて   | 31日 臨時理事会 会場 生涯学習センター第一会議室<br>報告事項<br>(仮称) つきのき・かしのき統合施設並びに<br>(仮称) 萩の杜生活介護棟の運営及び建設の経過<br>について   |
| 22日   | 運営会議<br>平成 20 年新規採用職員集合研修について<br>平成 21 年度新規職員採用状況について<br>総務の事務体制について<br>大阪府発達障がい者日中活動就労準備モ<br>デル事業の件<br>ジョブサイトひむろの消防設備について<br>職員の健康管理について |  |

(安原 記)

## 萩の杜 掲示板

- |       |   |       |                                   |
|-------|---|-------|-----------------------------------|
| 6月 1日 | PWS 支援者ネットワーク公開講座 (阿倍野市民学習センター)           | 8日    | 余暇委員会<br>オーラルヘルスケア                |
| 3日    | 課長主任会議<br>オーラルヘルスケア                       | 9日    | 精神科相談                             |
| 5日    | マニュアル検討委員会<br>ひむろ - 萩の杜調整会議               | 15日   | 課長主任会議<br>オーラルヘルスケア               |
| 6日    | 日帰り旅行 (ハーベストの丘)<br>個別支援計画策定会議 (Cグループ)     | 17日   | 生活介護係会議                           |
| 9日    | 美化の日<br>実習生受け入れ (キリスト教社会福祉専門学校 1名 ~6月28日) | 18日   | 日帰り旅行 (青少年野外活動センター)               |
| 10日   | 余暇委員会<br>オーラルヘルスケア                        | 22日   | 余暇委員会<br>オーラルヘルスケア                |
| 11日   | 精神科相談<br>個別支援計画策定会議 (Cグループ)               | 25日   | 実習生受け入れ (龍谷大学短期大学部 2名 ~7月30日)     |
| 12日   | 旅行委員会                                     | 29日   | 課長主任会議                            |
| 13日   | 日帰り旅行 (六甲山牧場)                             | 30日   | 精神科相談                             |
| 17日   | オーラルヘルスケア                                 | 8月 3日 | Aグループ研修会                          |
| 19日   | 生活介護係会議                                   | 4日    | 萩の杜内部研修会 (外出支援について<br>講師:西谷)      |
| 24日   | 余暇委員会<br>オーラルヘルスケア                        | 5日    | 旅行委員会<br>オーラルヘルスケア                |
| 25日   | 精神科相談                                     | 7日    | マニュアル検討委員会                        |
| 27日   | 日帰り旅行 (東条湖おもちゃ王国)                         | 11日   | 美化の日                              |
| 30日   | 避難訓練                                      | 12日   | 課長主任会議<br>オーラルヘルスケア               |
| 7月 1日 | 課長主任会議<br>オーラルヘルスケア                       | 13日   | 利用者夏期休暇期間 (~8月18日)                |
| 3日    | マニュアル検討委員会                                | 20日   | 精神科相談<br>余暇委員会                    |
| 4日    | 日帰り旅行 (六甲山牧場)                             | 21日   | 生活介護係会議                           |
| 7日    | 美化の日                                      | 26日   | オーラルヘルスケア                         |
|       |   | 27日   | 精神科相談                             |
|       |   | 28日   | 萩の杜内部研修 (強度行動障害と自閉症について<br>講師:木戸) |

(下 記)

## ジョブサイトひむろ 掲示板

- |       |   |          |   |
|-------|---|----------|---|
| 6月 3日 | エアロビクス (ゆうあいセンター)   | ※6月見学者   | 6組29名   |
| 5日    | 萩の杜との連携会議   | 6月実習生    | 1人延べ5日間   |
| 6日    | はぎのもりグループ①レクリエーション<br>(亀岡方面に行きました)<br>ジョブサイトひむろ会議                                       | 6月ボランティア | 1人延べ1日間   |
| 9日    | エアロビクス (ゆうあいセンター)   | 7月 1日    | ・エアロビクス (ゆうあいセンター)  |
| 10日   | ・洗濯①グループレクリエーション<br>(嵐山に行きトロッコ列車に乗りました)   | 4日       | ・ジョブサイトひむろ会議  |
| 12日   | ・洗濯②グループレクリエーション<br>(カラオケボックスと食事に行きました)<br>・ジョブサイトひむろスタッフ勉強会<br>(スタッフのチームワークについて勉強しました) | 7日       | ・エアロビクス (ゆうあいセンター)  |
| 16日   | ・陶芸①グループレクリエーション<br>(若園バラ公園に行きました)  | 10日      | ・そうぞう4①グループレクリエーション<br>(緑の文化園に行きました)<br>・ジョブサイトひむろスタッフ勉強会<br>(作業療法について勉強しました) |
| 17日   | ・高槻島本就労支援ネットワーク会議 (富田町公民館)  | 11日      | ・亀岡、グリーングループレクリエーション<br>(カラオケと食事に行きました)                                       |
| 18日   | ・「就労支援について」の説明会の開催 (就労希望利用者のご家族を対象) (高槻現代劇場)  | 14日      | ・そうぞう3②グループレクリエーション<br>(伊丹スカイパークに行きました)                                       |
| 19日   | ・療育①グループレクリエーション<br>(緑の文化園に行きました)   | 15日      | ・エアロビクス (ゆうあいセンター)  |
| 20日   | ・療育②グループレクリエーション<br>(緑の文化園に行きました)   | 17日      | ・メンテナンスグループレクリエーション<br>(カラオケと食事に行きました)  |
| 26日   | ・そうぞう1レクリエーション<br>(カラオケと食事に行きました)   | 21日      | ・祝日開所日。ジョブサイトひむろ利用者が<br>参加しました。   |
|       |   | 23日      | ・高槻島本就労支援ネットワーク会議 (富田町公民館)<br>ジョブサイトひむろの事業所紹介を発表しました。                         |
|       |   | 28日      | ・萩の杜①グループレクリエーション<br>(ガレリア亀岡に行きました)   |

- 29日 ・サニースポットさんとの交流会（サニースポット）  
スタッフ間の勉強会を実施しました。  
※7月見学者 8組 29名  
7月実習生 3人 延べ6日間  
7月ボランティア 1人 延べ4日間
- 8月 1日 ・ジョブサイトひむろ会議  
12日 ・慰労会  
(作業グループごとに茶話会形式で日頃の労をねぎらいました)

- 夏期休暇 8月13日(水)～8月18日(月)  
25日 ・エアロビクス(ゆうあいセンター)  
※8月見学者6組 15名  
8月実習生2名 延べ4日間  
8月体験実習生5名 延べ6日間  
8月ボランティア 1名 延べ4日間  
(平野 記)

## 自閉症支援部掲示板

### ○大阪自閉症支援センター

保護者研修(入門講座・実践講座)各月1回実施  
和泉市教育委員会 巡回相談(幼稚園1回、小学校2回、中学校1回 計4回)、基礎講座1回、テーマ別合同研修会4回、トレーニングセミナー2日間  
泉大津市教育委員会 巡回相談(小学校 計1回)、入門講座1回、テーマ別合同研修会2回  
高槻市教育委員会 巡回相談(小学校2回、幼稚園2回 計4回)、連続講座3回、トレーニングセミナー2日間  
摂津市教育委員会 巡回相談(幼稚園1回、小学校1回 計2回)、連続講座2回  
豊能町教育委員会 巡回相談(小学校1回)、連続講座4回、管理職研修1回  
大阪狭山市教育委員会 巡回相談(小学校1回)、連続講座4回、管理職研修1回  
研修会・講演会への講師派遣(箕面市こども部幼児育成課、大阪府私立幼稚園連盟、自閉症のバリアフリーを考える親の会はぐくみ、東大阪市立楠根中学校、)

### ○アクトおおさか

6月 5日～7日

発達障害者支援センター全国連絡協議会総会・実務者研修会(仙台市)参加

10日 職員研修「青年・成人期高機能広汎性発達障害の理解と支援④」実施

25日 職員研修「青年・成人期高機能広汎性発達障害の理解と支援⑤」実施

27日 平成20年アクトおおさか4回連続講座 第1回「高機能広汎性発達障害の理解と支援」亀岡智美先生講義

7月 1日 大阪府発達障がい団体ネットワーク運営委員会出席(事務局担当)

2日 大阪府立芦原高等技術専門学校職業実践科ケース会議出席

18日 厚生労働省発達障害の情報提供等事業に関する運営会議出席

30日 平成20年アクトおおさか4回連続講座 第2回「見立て・アセスメントのポイント」実施

31日 大阪府教育委員会発達障害のある生徒支援連絡会議出席

8月 1日 地域若者サポートステーション中央センター研修講師派遣

25～27日 三島ブロックリーディングスタッフ実技セミナー実施(於大阪府立高槻支援学校)

(新澤 記)

### ○児童デイサービスセンター an

6月 13日 保護者研修入門

20日 保護者研修実践

27日 保護者研修フォローアップ

7月 4日 保護者研修入門

11日 保護者研修実践

18日 保護者研修フォローアップ

8月

11～15日 夏休み

### ○自閉症療育センター will

6月 11日 保護者指導 入門(A)

18日 保護者指導 入門(B)

25日 保護者指導 実践グループ

30日 個別支援計画ミーティング

7月

1～18日 個別支援計画ミーティング

9日 保護者指導 入門(A)

16日 保護者指導 入門(B)

23日 保護者指導 実践グループ

8月

11～15日 夏休み

20日 保護者指導 入門(A)

27日 保護者指導 入門(B)

### ○自閉症療育センター Link

6月

2～16日 発達検査と面談

6日 療育に関する書類発送

17日 児童デイ 契約会

20日 児童デイ 契約会

19日 保護者指導 入門(A)

26日 保護者指導 入門(B)

7月 1日 療育開始

17日 保護者指導 入門(A)

31日 保護者指導 入門(B)

29～31日 個別支援計画ミーティング

8月

1～8日 個別支援計画ミーティング

11～15日 夏休み

(谷岡 記)

## ジョブサイトよど掲示板

- |       |                                    |       |                           |
|-------|------------------------------------|-------|---------------------------|
| 6月 3日 | レクレーション4階 森永工場見学                   | 7日    | 給食会議                      |
| 5日    | コロケ会議                              | 14日   | 支援員会議                     |
| 9日    | 施設見学会 島本町手をつなぐ親の会<br>支援員会議<br>給食会議 | 19日   | 土曜レクレーション 中華バイキング         |
| 11日   | レクレーション3階 森永工場見学                   | 22日   | コロケ会議                     |
| 12日   | レクレーションJ ブランチ<br>淀川区コミュニティスクール     | 25日   | 避難訓練                      |
| 19日   | レクレーション5階① るり溪散策                   | 28日   | 施設見学会<br>支援員会議            |
| 20日   | 職員研修会                              | 8月 8日 | 慰労会                       |
| 21日   | 土曜レクレーション 花博生き生き地球館                | 18日   | 支援員会議<br>給食会議             |
| 23日   | 支援員会議                              | 21日   | 職員研修会                     |
| 26日   | レクレーション5階② るり溪散策                   | 23日   | 土曜レクレーション 町内会盆踊り          |
| 30日   | 施設見学会                              | 25日   | 施設見学会 港育成園家族会<br>(佐々木寛 記) |
| 7月 4日 | レクレーション5階③ 天保山サンタマリア<br>号遊覧        |       |                           |

## 萩の杜家族会掲示板

- |       |                      |       |                    |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 6月 1日 | 定例会<br>草刈り           | 14日   | サークル萩              |
| 9日    | サークル萩                | 16日   | ケアホーム説明会 於生涯学習センター |
| 11日   | イオン黄色いレシートキャンペーン     | 24日   | サークル萩              |
| 16日   | 「ジョブサイトよど」においてコロケ試食会 | 27日   | カトリック教会花販売<br>定例会  |
| 26日   | サークル萩                | 8月 7日 | サークル萩              |
| 29日   | カトリック教会花販売           | 11日   | イオン黄色いレシートキャンペーン   |
| 7月10日 | 倉庫整理                 | 28日   | サークル萩<br>(山本 記)    |
| 11日   | イオン黄色いレシートキャンペーン     |       |                    |

## ジョブサイトひむろ家族会掲示板

- |       |  |   |                                 |
|-------|--|---|---------------------------------|
| 6月 6日 | ジョブサイトよど コロケ試食会 豊澤参加   | SS会 (ケアホーム委員会) 本部会議室<br>がんこ会 本部会議室<br>がんこ会懇親会 |                                 |
| 18日   | 今後の就労移行に向けた支援の取り組み説明会<br>高槻現代劇場 202号室 有志出席<br>SS会 (ケアホーム委員会) | 19日   | オアシスおやじの会 プラザホテル 豊澤参加           |
| 21日   | 各家族会連絡会 (通称がんこ会) 本部会議室<br>豊澤参加 がんこ会懇親会 豊澤 参加                 | 23日   | 1 役員会 本部会議室                     |
| 25日   | ケアホーム「庵」見学会参加 豊澤 参加  | 8月20日   | がんこ会 本部会議室<br>がんこ会懇親会<br>(豊澤 記) |
| 7月16日 | ケアホーム説明会 (生涯学習センター)  |   |                                 |

## 北摂杉の子会後援会掲示板

### <近況報告>

萩の杜、ジョブサイトひむろ、ジョブサイトよどの家族会を含む多くの方々のご支援をいただき、まことにありがとうございます。また、ご寄付も頂いています。今後ともより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

### (会員数)

- ・2008年06月末  
個人会員：549名、団体会員：16団体

合計：565名/団体 寄付：6件

- ・2008年07月末  
個人会員：562名、団体会員：16団体  
合計：578名/団体 寄付：8件
- ・2008年08月末  
個人会員：595名、団体会員：16団体  
合計：611名/団体 寄付：2件  
(今年度の新規会員：個人；72名)

(棚山 記)

## ジョブサイトよど家族会掲示板

- |       |   |       |   |
|-------|---|-------|---|
| 6月 2日 | 家族会役員会開催。100円喫茶実施。  | 10日   | オアシス役員会で100円喫茶実施。   |
| 4日    | 将来構想委員会就労部会 JSひむろ見学。(会長)  | 13日   | 十三市参加。  |
| 12日   | オアシス役員会で100円喫茶実施。   | 14日   | オアシスサロンで、100円喫茶実施。<br>給食試食会実施。  |
| 13日   | 十三市に参加。   |       | 勉強会 衛生について  |
| 16日   | オアシスサロンで100円喫茶実施。<br>コロッケ試食会で、法人内の家族会交流。                                  |       | 講師 委託会社中央フードの栄養士  |
| 19日   | 関西学院大学人間福祉学部准教授 松岡克久氏<br>訪問。<br>(オアシス会長、ジョブサイトよど会長)                       | 7月    | 家族会定例会開催。会員23名、佐々木施設長出席。  |
| 23日   | 勉強会(オアシス共催)<br>テーマ 就労にむけて家庭の役割<br>講師 大阪市心身障害者リハビリテーションセンター<br>相談担当係長 堀内桂氏 | 29日   | 将来構想委員会就労部会 参加。(会長)   |
| 7月 1日 | 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会<br>参加。(会長)   | 8月 4日 | オアシスサロンで、100円喫茶実施。<br>家族会役員会開催。100円喫茶実施。  |
| 3日    | 歯科検診を実施。<br>オアシス副会長 和泉先生(歯科医師)ご協力頂く。                                      | 7日    | オアシス役員会で、100円喫茶実施。<br>淀川区役所健康福祉センター、大阪市淀川区<br>社会福祉協議会、淀川区民生委員長宅、十三<br>振興町会長宅訪問。(会長、副会長) |
| 7日    | オアシス座談会で100円喫茶実施。<br>家族会役員会開催。100円喫茶実施。                                   | 8日    | 十三東2丁目町会長宅、十三東3丁目町会長<br>宅訪問(会長、会計)  |
|       |   | 20日   | 将来構想員会中間発表会に参加。(会長)   |
|       |   | 25日   | 大阪市育成会港育成園保護者会見学接待。(会<br>長、副会長)   |
|       |   | 27日   | 理事長と語ろう会、十三がんこ寿司で実施。<br>(福田 記)  |

## 大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス掲示板

- |       |   |       |  |
|-------|---|-------|--|
| 6月 4日 | 学齢委員会会議   | 7日    | 新澤伸子先生を囲んで座談会開催<br>(テーマ：思春期について)             |
| 5日    | 調理器具 IH講習受講(会長、就労委員会、<br>研修委員)                        | 10日   | 7月度役員会                                       |
| 8日    | 調理実習予行(療育OBによる)                                       | 11日   | 大阪市立心身障害者リハビリテーションセン<br>ター訪問(会長)             |
| 9日    | 収益委員会バザー準備(収益委員会、役員会、<br>ジョブサイトよど家族会)                 | 11日   | エルムおおさか訪問(会長)                                |
| 12日   | 6月度役員会  | 14日   | オアシス・サロン開催                                   |
| 13日   | オアシスバザー、十三市にて開催(ジョブサ<br>イトよど家族会共催)                    | 14日   | 調理実習食育講習受講(就労委員会)                            |
| 16日   | オアシス・サロン開催  | 19日   | おやじの会主催 大ビアパーティー開催                           |
| 19日   | 関西学院大学訪問(相談役、会長)                                      | 28日   | ニッセイ財団助成金目録贈呈式出席(相談役)                        |
| 21日   | おやじの会開催   | 8月 1日 | 大阪薫英女子短期大学訪問(会長)                             |
| 23日   | 勉強会開催(よど家族会共催) 講師：堀内<br>桂氏(テーマ：いい大人になるには)             | 2日    | 西区そよかぜまつり参加(相談役、前会長、<br>会長、副会長)              |
| 26日   | オアシス会員保護者実践報告会開催<br>ドーンセンターにて 参加者70名                  | 4日    | 保育士さんを招いてオアシス・サロン開催                          |
| 26日   | そよかぜまつり実行委員会出席(相談役)                                   | 7日    | 8月度役員会                                       |
| 7月 1日 | 大阪府発達障がい団体ネットワーク運営委員<br>会出席(前会長、副会長)                  | 9日    | 調理実習第一回目開催(ニッセイ財団助成金<br>による) 参加対象：オアシス会員児・一般 |
| 3日    | 学習会開催(テーマ：夏休みについて)<br>長居障害者スポーツセンターにて<br>機関誌 いるか通信 発行 | 17日   | 調理実習第二回目開催(ニッセイ財団助成金<br>による) 参加対象：オアシス会員児・一般 |
| 5~6日  | 就労体験開催<br>(オアシス会員児による機関誌の発送業務<br>体験)                  | 24日   | 余暇・交流会開催<br>(芝 記)                            |

□法人へのご寄付に感謝いたします。(2008年6月17日～8月21日)

足立頼彦 森田弘 河端良一

□後援会入会と会費納入に感謝いたします。(2008年5月28日～8月28日)

(株)魚国総本社 (有)ウイズグリーン 阿部倫子 安部匠真 安部晶巳 安部勢津子 安部美和 安部文博 伊福久子 井関京子 井桁友紀枝 井上誠子 井上陽子 井田 進 井田正志 井田裕喜 井田和美 稲田聖子 永井昌明 永田啓子 永田健二 遠藤一太 遠藤仁子 塩田好子 塩田裕正 横井誠治 下村孝子 河端良一 垣本寿也子 梶井英二 関 喜子 関 正弘 岩井光男 岩成由佳子 吉川慶子 吉田勢蔵 久保 茂 宮崎慶子 宮地和子 橋本紀子 玉木一彦 近藤 勝 具志堅 進 具志堅郁子 窪田富佐子 甲斐田美智子 甲木 翠 甲木和子 降幡 恵 高宮郁子 高槻農業協同組合 高島鴻志 高島美津子 合田裕章 今村一二三 今村圭子 今村聡之 今村暢也 佐々木サツキ 佐藤宜三郎 細田寛容 坂井恵美子 榊原元康 三浦健治 山下 学 山下隆司 山口 博 山口賢次 山口秀子 山口重雄 山口文子 山田綾子 山田信子 山田博道 山田文男 山内千鶴子 山本明子 山本明彦 山本玲子 山本壽一 山里将夫 四方あかね 志賀亜之 寺村善則 寺村有里子 篠田正道 小越洋一郎 小倉裏二 自閉症の人のバリアフリーを考える親の会「はぐくみ」 小林伸次 小林真理子 小林善浩 小林由美子 松本愛子 沼波喜代子 照内チヅ子 照内百子 上島 進 上里弘子 新開健治 新谷 敦 新田利秀 森田 弘 森田俊博 森田豊子 森田靖紀 森田和成 菅沼朋子 瀬戸山隆三 清水康夫 西井正美 西坂徹雄 西田公子 石田千恵 川合定雄 川田紀久男 浅野憲治 前田直俊 早原君子 相田晴夫 足立頼彦 村山宣明 大上直子 沢田幸子 沢田良造 谷口智恵子 丹藤まいか 丹藤ゆうか 池下貞子 池田秀幸 池田満智子 中井喜代子 中西邦夫 中村 潤 中村亜希 中村悦子 中村義昭 中村豪史 中村四葉 中村節史 中村忠雄 中村哲史 中谷日出子 中島江美子 中本 昭 長岡 功 長谷川ひろみ 長尾あゆみ 長尾杏奈 長尾京子 長尾幸英 長尾智久 長濱孝晴 長濱美智代 塚元 俊 辻村淑子 田口勝重 田口道代 田口敦夫 田口容子 田口和人 田寺雅幸 田寺文子 田村八乗 田中孝子 田中由紀子 渡辺洋子 嶋田輝美 藤井弘子 藤下智子 藤田晴美 藤本次郎 藤本章雄 篤田晴子 内田幸子 内田和之 南 浩聡 南 昌子 梅花女子大学 柏原紀男 柏原孝紀 柏原智恵子 畑中たけし 八里さだ 飯塚むつみ 飯塚信一 蛭 亨 蛭 豊 浜田由美子 富田カズミ 富士谷 啓 富宅由美子 福井 務 福井裕子 福原温子 福原龍彦 福原啓子 福田江里子 福田浩三 福留康俊 平井雅子 平林弘子 柄須賀咲智子 並河 博 並河光子 並河妙子 米田たか 保田 茂 北村久美子 北爪紀子 北爪敏雄 北爪隆子 堀川浩二 本村 周 本田成美 本田千秋 本田文江 木下治一 木下豊仁 木村恵美子 野口みち子 野口里子 野口良三 矢ヶ崎取一 有田和弘 (有)北摂初田 梁 恵子 梁 典雄 梁 桃子 林 堅一 林 秀郎 鈴木孝雄 鈴木都美 濱田誠治 萬代正人 明定克次

□後援会へのご寄付に感謝いたします。(2008年5月28日～8月28日)

中村千秋 沖田正治 新川 淳 北村憲一 蓮池 學 棚山薫晴 増田桂子 雀部昌子 橋本恵美子 梶井英二 蛭 亨 林 秀郎 濱田誠治 辻 薫 田口恵美子

□家族会へのご寄付に感謝いたします。(2008年7月1日～9月30日)

ほかほか弁当茨木園田店 植松登志子 本田賀子 北畑 森田 弘 植松芳哲 福田節子

□物品のご提供に感謝いたします。(2008年7月1日～9月30日)

古賀 古野 岡田 南野 西原三恵子 鶴谷久子 成田敏子 中川裕子

□ボランティアに感謝いたします。(2008年7月1日～9月30日)

ほかほか弁当茨木園田店 松木咏子 蓬莱 暁 森有希恵 西本 愛 丹葉大樹

(敬称略 順不同)

## 寄付と後援会入会のお願

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座までお願いいたします。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

記

- ◆ 1. 寄付金
- ◆ 2. 個人会員 年間一口 2,000円
- ◆ 3. 団体会員 年間一口 10,000円

◆ 郵便振込口座北摂杉の子会 ◆  
00920-8-90859

□ 社会福祉法人北摂杉の子会法人本部事務所

〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402  
TEL (072) 662-8133 FAX (072) 662-8155  
[E-Mail] info@suginokokai.com  
[URL] http://www.suginokokai.com

□ 知的障害者生活施設萩の杜

〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1  
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130  
[E-Mail] haginomori@suginokokai.com

□ ショートステイセンターぶれす

〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1  
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130  
[E-Mail] breath@suginokokai.com

□ ケアホームとんだ

〒569-0814 高槻市富田町5-13-14101号室

□ ケアホームみやた

〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1105号室

■ 高槻市障害者地域移行支援センターだ・かーぼ

〒569-1141 高槻市氷室町3-20-10  
TEL (072) 690-522 1FAX (072) 690-5227  
[E-Mail] da-capo@suginokokai.com

□ ジョブサイトひむろ(就労移行支援・生活介護事業)

〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27  
TEL & FAX (072) 697-2234  
[E-Mail] himuro@suginokokai.com

■ 生活支援センターあんだんて

〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27  
TEL (072) 697-2233 FAX (072) 697-2234  
[E-Mail] andante@suginokokai.com

■ 大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか

〒532-0023 大阪市淀川区十三東3丁目18-12 イトウビル1F  
TEL (06) 6100-3003 FAX (06) 6100-3004  
[E-Mail] act-osaka@suginokokai.com

■ 大阪府発達障がい者日中活動・就労準備支援モデル事業所

〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目6-8 高田ビル201  
TEL (06) 6100-0262 FAX (06) 6100-0282

□ 自閉症療育センターwill

〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F  
TEL (072) 662-0100 FAX (072) 662-0056  
[E-Mail] will@suginokokai.com

□ 自閉症療育センターLink

〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3階  
TEL (072) 841-2411 FAX (072) 841-2412  
[E-Mail] link@suginokokai.com

□ ジョブサイトよど(就労移行支援・生活介護事業)

〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06) 6838-7007 FAX (06) 6838-7015  
[E-Mail] yodo@suginokokai.com

□ 大阪自閉症支援センター

〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015  
[E-Mail] o-center@suginokokai.com  
[URL] http://oasc.jp

□ 児童デイサービスセンターan

〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015  
[E-Mail] an@suginokokai.com [URL] http://oasc.jp

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人北摂杉の子会 理事長 中村節史 発行所 北摂杉の子会 住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1

発行日 2008年10月10日

定価 100円